

## 令和3年度森林吸収源インベントリ情報整備事業九州ブロック現地講習会報告

開催日：2021年9月22日(火)

場所：熊本県阿蘇郡南小国町（格子点ID：430420）

受講者：(株)九州自然環境研究所5名

講師：酒井（寿）（森林総研立地環境研究領域）、酒井（佳）、鳥山、森（森林総研九州支所）

### 概要

九州ブロックの調査を担当する(株)九州自然環境研究所を対象に、熊本県阿蘇郡南小国町の民有林（ID430420）において現地講習会を行った。受講者の多くは土壌調査経験者であり、未経験者は5名のうち1名であった。調査地点はスギ人工林で下層植生は疎であり、地形は平坦で林内での移動は比較的容易であった。調査開始時は小雨であったがすぐに回復し、気候も穏やかで快適な作業環境であった。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスク着用等の対策を行った上での講習会となった。

南小国町ファミリーマートの駐車場に9時に集合した。調査地点まで車で移動し、挨拶と趣旨説明を行った。講習開始時に受講代表者からGPSログの提出形式について質問を受けたため、GPSログの開始は目印となるわかりやすい地点に設定すること、1回の調査で複数の調査地を移動する際にはデータを分離する必要はなく全行程のGPSデータを重複して提出してよいことを説明した。本調査地は受講者によって事前調査が行われていたため、中心杭の探索に時間を費やすことなく講習を開始できた。E地点は杭が見つからなかったため仮杭を設置した。ライン長の測定を行った後、林相写真を撮影し、植生および地形の概況を記載した。

調査地概況調査の後、2班に分かれて枯死木調査を行った。分解度の判定については特に念入りに指導を行った。根株に段差がある場合の直径および地際高の計測位置について、改定されたマニュアルの模式図を用いて説明した。根返りした根株がベルト上に出現したため、根株に分類されることをマニュアルの枯死木分類チャートに従って説明した。

11時30分から、3班に分かれて土壌炭素蓄積量調査を開始した。経験の豊富な受講者が土壌調査未経験者を指導し、適宜講師が助言と指導を行う形式で進行した。E地点は、おそらく講習会の数日前まで降り続いていた雨の影響で土壌調査地点が地表まで水に浸かっていたため調査不能と判断した。S地点は少し掘り進めたところで水がしみ出てきたため、深さ15cmまでの試料を採取することとした。

昼休憩の後に断面の整形と試料の採取を行った。試料採取の際には、経験の豊富な受講者が実演と説明を行いながら未経験者を指導し、講師が補足説明を行った。円筒でのサンプリング時には、円筒周りの根や風化した岩石等を十分に切断すること、剪定鋏での切削が困難な石礫が円筒からはみ出す場合には、石礫を円筒内から一旦取り出し、円筒内に含まれる範囲に相当する大きさの同種の礫と置きかえることを、マニュアルに従って指導した。N地点

ではブロックサンプリングが2回必要であったため、1回目に経験の豊富な受講者が実演を行い、未経験者が2回目の試料採取を行う形式で進行した。

16時半に試料の確認と化学分析用試料の混合を行った。本調査地では、S地点で15～30cmの土壌試料が採取できなかったため層によって土壌試料の数が異なっていたが、マニュアルに従ってS地点の試料を含めた混合試料を作成するよう指導した。また、S地点の試料は含水率が非常に高かったために土塊を形成しており、ポリ袋を回して攪拌するという通常の方法では試料を均一に混合することが困難であった。必要に応じて土塊を手で細かくするなど時間をかけて十分に混合するよう指導した。講評・要点の確認を行い、17時に講習会を終了した。

昨年同様、受講者らの作業は極めて丁寧であった。特に枯死木調査の分解度判定については、根拠を持って判定ができるようマニュアルに従って丁寧に判定を行っていた。本講習会では、各作業の要点を改めて確認することができた。今後の調査精度が更に向上するものと期待される。



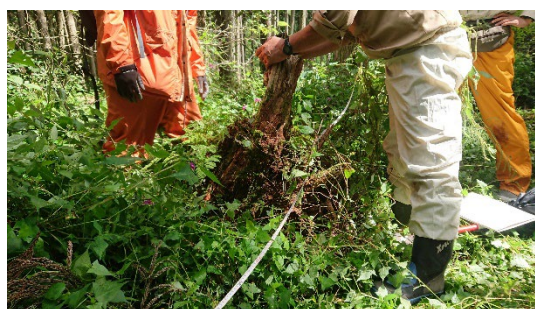
調査地概要（スギ人工林）



林相調査



N地点での粗掘りの様子



根返りした根株の分解度判定





堆積有機物採取のための枠の設置



ブロックサンプリング



N 地点の土壌断面



S 地点の土壌断面



調査不能と判断した E 地点



W 地点の土壌断面